

## コロナ5類移行後、患者数は緩やかに回復 呼吸器系疾患は誤嚥性肺炎が増加、行動制限・猛暑が影響か

国内最大規模の診療データベース（DB）を持つメディカル・データ・ビジョン株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：岩崎博之）は、新型コロナウイルス禍前後の患者の受療行動を分析。コロナ禍には患者の受診控えの影響で急減した患者数が、今年5月8日の感染症法上5類に移行した後に回復傾向を見せています。また、呼吸器系疾患を詳しく見たところ誤嚥性肺炎が増加していることが分かりました。コロナ禍の行動制限や猛暑などの影響ではないかと推察されています。

以下の条件で  
 DB分析しました。

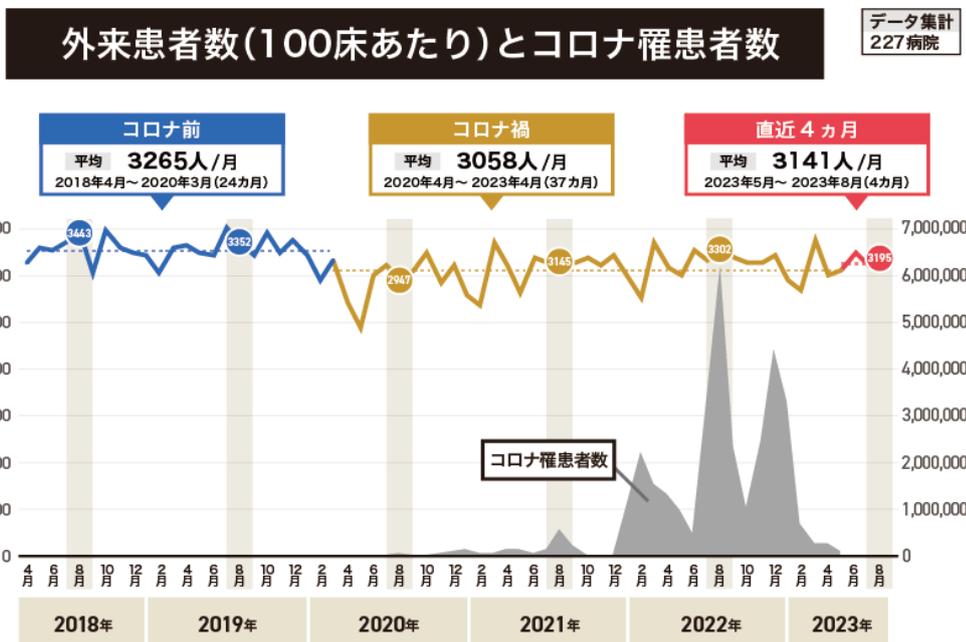
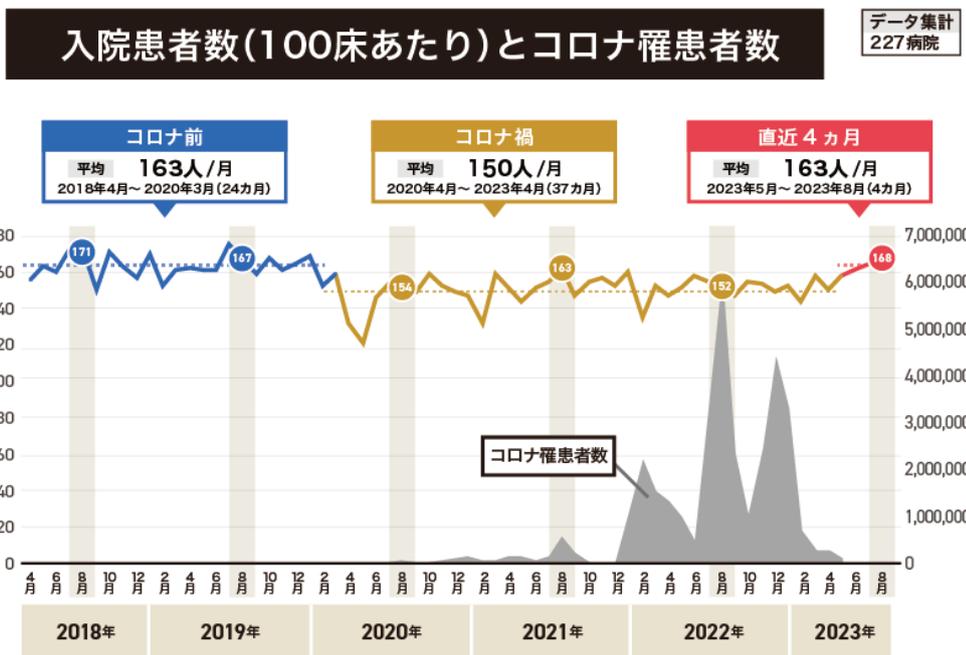
【集計期間】  
 2018年4月  
 ～2023年8月

【施設数】  
 上記の集計期間でデータの  
 揃っている227施設

【MDVが保有する  
 診療データベース】

病院データ  
 実患者数 4525万人  
 493施設  
 （2023年10月末時点）

保険者データ  
 実患者数 1970万人  
 661団体  
 （同）



メディカル・データ・ビジョン  
 広報：君塚・赤羽・汲田  
 電話：03-5283-6911  
 MAIL：pr@mdv.co.jp

